

第62号

発行所  
京都市中京区河原町三条  
カトリック京都司教区  
広報室 (Tel211-3768)  
編集責任者 村上透磨  
編集部 教理センター  
田中司教認可

# 京都教区時報

## 小教区の頁 — 宮津教会

### 変わるものと変らぬもの

村上透磨

「古い皮袋に新しい酒を入れる事は出来ない」「古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着よ」等の言葉は新しい事を目ざす人にとって、飛びついたくなる聖書の言葉である。

又新しい事は良い事だと頭から決めて、古い事をけじめする人がいる。

又逆に、古いものだけに価値を認め、新しいものをすべて排そうとする人もいる。

改新と刷新、進歩と今日への適応と云う精神は公会議を契機として一段と発展をとげた。

例えばまずミサを中心とした典礼の改革があげられるであろう。教会の組織の改革、教義の新しい見直し、プロテスタントや他宗教に対する見直しの改心等種々あがる事が出来る。

その中でこの急速な発展について行けない人がいる。彼らにとつてそれは発展ではなく退歩と見られ、極端な場合、真面目に異端化への動きと信じる。

又逆に「公会議以後変わった。何もかも変わった」と早合点する人がいる。

然し教会は本質的に変わったのだろうか？

教会には変つてよいもの、又変るべきものがあるが変らないもの、又変つてはならないものがある筈である。若しその発展が正しいものであるなら、変化以前と以後に共通に残るものがある筈である。公会議文書を注意深く早合点せず読めばそこに本質的に変らぬ精神が見られる。例えば一番身近かな典礼は変つた。

しかしミサの聖変化の部分と意味は変つたわけではない。司教の合議性と云う事が前面に

おし出されても教皇の首位権が変つたわけではない。信仰の表現は違うかも知れないが信仰告白は変つたわけではない。

「天地は過ぎゆく、然し私の言葉は過ぎゆかない」と云う確固とした断言がある。

「改心せよ、神の国は近づいた、福音を信ぜよ」「私は道、真理、生命」「私は神のみ言葉」の持つ意味も価値も変らない。

「愛せよ」の掟にも変わりはない。

変わるものがあるとすれば、それは本質的でないものがある。変る事があるなら、それは本質を正しく伝えるために変る。それが「今日への適応化」であり刷新の意味である。

単なる変化は発展ではない。真の発展は、真理の本質を今自分の生きている時と場に翻訳しそれに生きる事である。キリスト者としての真の霊的進歩はキリストの真の姿に、現代において出会う事である。

キリストを祈の中に共に見つめる事が無い限り、又聖書や教会の権威ある人々の語る事を祈りの中に愛、謙虚、開かれた心をもつて聞く事なしに本質をつかむ事は出来まい。本質をつかむ事なく変らぬものを把む事も出来まい。変らぬものは確かにある。真理や神の言葉は永遠なのだから。又同時に変るべきものは確かにある。神の言葉は永遠なのだから。それを謙遜に見つめ、愛を持って探らう。ヴァイジョン作りを考える時その変るものと変らぬものを見つめたい。

▽七月十四日④

日本二十六聖人顕彰記念碑除幕式  
於・四條堀川下ル東側

▽七月十六日④

邦人教区司祭月例会  
聖母の家学園理事会  
於・四日市 聖母の家

▽七月十九日④

▽七月二十二日④

八幡教会創立二十五周年記念日、堅信式  
▽七月二十八日④～八月一日④  
全国カトリック学生セミナー  
於・洛星高校

▽八月九日④～十二日④

日本青年宗教者会議 於・長崎  
▽八月十五日④聖母被昇天の祭日  
報恩寺教会創立三十周年記念日、堅信式  
▽八月十九日④

西陣教会創立三十周年記念日、堅信式  
▽九月三日④

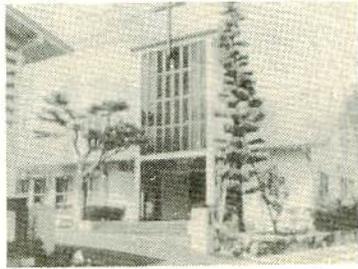
司祭評議会定例会議  
於・カトリック会館  
▽九月三日④～五日④  
宣教師牧委員会  
於・札幌  
▽九月九日④  
唐崎教会堅信式



### 教区短信

# 松坂教会25周年記念

神と人に仕え



松坂は国学者本居宣長生誕の地であり、伊勢神宮を近くにひかえ、国粹的な気風の盛んなところである。ここにメリノール会ウオーナ

ル会ウオーナ一師により昭和28年5月、最初のミサが行われた。昭和29年1月、現在地に用地を買収し、同年8月22日、特にスタインバック師の努力により献堂、祝別は古屋司教によって行われた。以来、初代主任スタインバック師、二代ザイン師、其後ウォルケン師、エグルストン師、そして現主任マキロツ

ブ師に受けつがれた。  
去る5月27日創立25周年に、古屋司教、ラッキー管区長、歴代主任司祭、村上(勤総代理等十名の司祭の共同司式で、吉田松坂市長の出席のもとに感謝のミサが行われた。ミサ後吉田市長は「諸種の施設は整いつつあるが、精神面はこれから、この25年間カトリック信者の皆さんの温かい親切な愛の精神をもととして、市民の心が導かれる様になりたいと思ふ」との励ましの言葉があった。高この教区には「南勢特老ホーム」心身障害者施設「聖母の家」があり、これも道路わきに倒れ

ていた老女を背負って教会に導き入れた事、小児マヒの故北川和男君と妹、寿美ちゃんとの出会いが、聖母の家の設立のきっかけとなった。「マリア様が何とかして下さる。」と云うスタインバック師の信仰はその首にかけられた寄附箱にも多くの愛の手がさし入れられ、歴代の主任司祭、信徒の協力、ウイチタの聖ヨゼフ会、聖心のウルスラ会のシスター達の努力によって無言の証しはこの国粹的な地に、キリストの愛の精神をしっかりと根ざしつつある。

## 二十六聖人顕彰碑除幕式

中国、インド、メキシコ各国人一名、スペイン人四名の他は殆んどが京都出身、京都市民であったと伝えられる殉教者たち。日本を心から愛し、秀吉から譲り受けた四条堀川近く元妙満寺跡に教会と西

欧式病院を建てて、救病、救貧と宣教活動に尽くしたこの神の国の建設者たちは、三百八十年前長崎の丘に立ち並んだ十字架上に惜しげもなく彼等自身を主に捧げた。ゆかりの京都にこうした史実を伝える碑もないことを惜しまれた日本中世医学史研究家で医師でもある守屋正博士、茶木師、府医師会、地元の方々の熱意と努力が実って顕彰碑除幕式を迎えた。七月十四日午後、ホセ・アラゴネス駐日



スペイン大使、田中司教他約二百人参加のもとに、四条外科病院の西壁面にはめこまれた御影石製(縦1m、横110cm)の顕彰碑は守屋氏の手で除幕され、田中司教によって祝別された。「SUS OBRAS H A B L A N (彼らの行ないは語っていない)」のスペイン語そのまま、に二十六聖人の奉獻は、二十世紀に生きる私たちへののみことばの宣教の鑑といえよう。くだんの妙満寺跡には教会の他に、聖アンナ、聖ヨゼフ病院、学校、司祭館、信徒の家々、墓地等があったといわれる。現在、昔の名で「妙満寺町」と呼ばれ、この辺は江戸時代の地図で「だいうす町」、ラテン語の神、Deusと名付けられている。それをもて宣教活動に従事したフランシスコ会宣教師たちの燃えるような信仰、そして彼らから洗礼を受けて一途に信仰に徹し、行路病者を自ら肩にか

ついで病院に収容し、痲患者の身体を洗い衣類を自ら洗濯するなどキリストの生涯そのまゝに従おうとした信徒の姿をうかがうに難くない。

堀川通り行き交う車の騒音をよそに、田中司教、スペイン大使に続いて挨拶を述べられた四条外科病院長中野氏が四十年前に氏の立たる同じ土地に西欧的医療活動が宣教師たちによって始められたことに、信者にも増して感動されたこと、ユニフォーム姿の看護婦さんの石碑への花束贈呈が美しく、印象深かった。

## 喜びと悲しみと

司祭叙階祝  
プロドニヤック師(メリノール会)  
帰天  
徳久清二師(64才・メリノール会)  
去る七月四日、メリノール会ジエームス徳久師(津主任)は胃癌のため帰天。七月六日、津教会において、両司教、管区長はじめ多数の司祭、信者の出席のもと盛大に葬儀ミサが行われ、津市半田の青谷墓地に他の先駆宣教師信徒と共に、壮厳に葬られた。



師は大正4年3月4日シアトルに生まれ、昭和24年6月11日叙階、同年8月来日、京都高野、小山、青谷、田辺等の司教に従事し、レジオ等の指導に当られ、昭和42年から津教会主任かたわら保育園長、津南、久居の主任も兼任された。温厚で、ユーモアに富む性格が徳ばれる。

## イザベラ・ギニー(91才)

マリスタ会ギニー師の母堂  
5月21日、追悼ミサが、奈良教会に於てマリスタ会員をはじめ、邦人、メリノール会司祭達の共同司式のもと、信者多数出席して行われた。



母の日の聖母行列  
北丹後三教会合同で

聖母を讃え、母を敬いねぎらうため、恒例となった北丹後三教会網野、峰山、大宮教会合同の五月の行事聖母行列は、快晴に恵まれた五月十三日「母の日」の午前十時のミサに続いて行われた。会場は大宮教会のルルドとホール前の聖母像は早朝から信者たちによって飾りつけられ、聖母讃歌の準備がととのえられた。行列は台座に飾りつけられた無原罪の聖母像を三教会代表の嗜着姿の婦人四人がかつぎ、十字架を先頭に侍者、花まき少女、マリア像、婦人、壮年ら約百名の信者たちが、ロザリオをととなえ、聖歌を高らかにうたいながら、聖堂内から第一会場ルルド前へ、さらに教会を一周して第二会場ホール前の聖母像までつづいた。「母の日」にちなんで母たちの祝福が主任司祭より、子供たちより花一輪がすべての母たちに献じられたのち、用意したすしとおにぎりの接待が壮年たちによってなされ、なごやかに会食、聖母讃歌の行事を終了した。

国際児童年の趣旨にそって開催されたウォーカソンは奈良県下八教会が中心となり、春雨けむる3月21日(春分の日)に実施された。

「ウォーカソン」日本では未だ馴染みのうすい言葉だが一種の募金運動で参加者全員が自分でスポンサーを募り、各自一キロ当たりの募金金額を約束してもらい、求められたコースをチェックポイントのチェックを受けながら歩き抜くのである。

参加者は教会内外から募った小学六年生以上中高生ら百八十人と約三百人のスポンサーであった。当日はあいにく雨降りだったが百七十人が二十キロの全行程を完歩した。またスポンサーも教会関係者に限らず一般市民にもこの運動が理解され多数の協力をいただくことができた。

募金総額は百九十万円に達し、全て財団法人「日本ユニセフ協会」を通じて国連ユニセフ本部に送金された。

子どもたちにとつては、ただ歩くという単純な行為だが世界の恵まれない子どもたちのため



### 国際児童年………世界の子どもの達のために 奈良県下八教会のウォーカソン

に歩くのだということに、それぞれ意義を見いだし、悪天候の中を頑張ってくれたものと思う。

この運動を呼びかけた、西大和カトリックセンターのジム・カーティ神父と実行委員会も初めての「ウォーカソン」が多くの成果をあげ無事終了したことに感謝している。

**ウォーカソンに参加して**  
奈良教会 仲井 敏治

歩いてお金をもらおう!! この募金運動は単にポケットからお金を出して募金箱に入れるのではなく、自分でスポンサーを深し、自分の足で歩いて、はじめてスポンサーから募金が得られるというのである。

二十キロという長距離を歩くことは苦しいが、それによって集められた募金は二十キロを歩く以上に苦しんでいる可哀そうな子ども達へ送られるということに感動し参加することにした。

コースは、奈良教会と登美ヶ丘教会を所属教会から出発して他方の教会までの片道十キロを往復するのである。もちろん二十キロも歩けない人は途中で引き返してもよかった。

気付いた事といえば、両教会以外の教会からは、もちろん、信者でない人も参加していたこと、途中の道筋には一キロ

毎にスヌーピーの絵が書いた標識が貼ってあり、これが単調なコースを歩くものに励みを与えてくれると思った。歩いた証明は途中の五キロ、十五キロ地点と他方の教会でチェックしてもらった。

コースは大体一本道で迷わなかったが景色・道路が単調で残念との声も聞いた。当日は雨降り寒かったから、二十キロ傘をさして歩くことはとても辛かった。特に小さな子どもは可哀そうだったが、それにもめげず、完歩した人は多かった。多分、雨や長距離ということにも、意欲と、楽しい雰囲気打ち勝つたと言える。

この行事は大人と子どもの縦のつながり、子どもどうしの横のつながりを一層深めてくれたと思うし、この機会に「教会」を知ってもらえたかもしれない。

雨や単調なコースやらと、言っていたが、その方が苦勞なしに歩いたよりも直打ちがあるのではないだろうか、この行事は、単なる募金ではなかったというのに参加して感じたことである。

**十一月ウォーカソンへ!**  
時報編集部でも、国際児童年への認識を深めようと同じく、子ども達自身の手による助け合いという意味をこめて、このウォーカソンをカーティ師の指導を得ながら企画、立案中です。十一月三日(文化の日)に実施の子定で、詳細は次号に発表します。多くの子どもたちの参加を望んでいます。

司教の足どり

五月～七月



- 5月
  - 15 聖心のウルスラ会総長来訪
  - 16 邦人司祭代表者会
  - 17 FABC司教研修(比島)
  - 6月
    - 1 比島より帰国
    - 3 河原町教会堅信
    - 5 司祭評常任委。邦人司祭代表者会。善きサマリア人会総長来訪
    - 6 亀岡教会、園部修道院訪問
- 7 女子メリノール祝別(松ヶ崎)
- 9 メリノール女子学院理事会
- 10 安土セミナリオ跡ミサ
- 11 コレアンセンター代表来訪
- 12 16 司教協議会総会(東京)
- 17 奈良教会堅信
- 18 邦人司祭月例会
- 19 社団法人「京都カリタス会」理事施設長会議
- 21 日本宗教代表者会議(明治神宮)
- 23 パチカン諸宗教聖省より来客
- 24 西院教会堅信
- 25 京都諸宗教を訪問
- 26 パチカン客離京
- 27 NCC宗教研究所評議会
- 28 亀岡教会訪問

各活動団体指導司祭

人事移動

一九八一・三・三一まで

- 教区事務主任 齋木師(松本秀師)
- 教会行政・法制 齋木・東門師(東門師)
- 神学生養成 滝野・松田・松本(秀師)
- 召命促進委員会 村上(真・藤堂・滝野師)
- 本(秀師・シスター)
- 諸宗教 田中司教・花井師(田中司教・東門師)
- 要理教育 松本(三師)交渉中(教区事務所)
- 教理センター Sr米屋(ヘーシベック師・Sr米屋)
- 地区担当滋賀 ライリー師(ツーシェット師)
- 京都北部 横田師(近藤師)
- 病人への奉仕の機関 高橋師・Srロバート
- カリタス・ジャパン
- 信仰弘布会 教区事務所
- 児童福祉会 (松本秀師)
- 教区N・C・K 村上(真師)(教区事務所)
- 教区信徒連合 村上(真師)
- 地区 奈良 オヘル師
- キリシタン遺跡保存会 茨木師及び歴史家
- ( ) 内は旧担当者

第四回 結婚講座

お知らせ

- 29 社団法人「京都カリタス会本部」監査(京都府より)
- 30 南壮連代表と懇親会
- 7月
  - 1 河原町ミサ、大和高田教会より巡礼団
  - 2 司祭評定例集會、邦人司祭代表者会。
  - 3 神学生養成担当者会
  - 6 故徳久清次師(メリノール会)の葬儀ミサ(津)
  - 8 九条教会堅信
  - 11 日本宗教代表者会(明治神宮)
  - 14 26 聖人顕彰碑除幕式(四条堀川)

日時 9月9日⑩ 午前11時～午後4時  
 講師 古屋司教 岩井氏 太田氏(マリ  
 ジ・エンカウンター)  
 会場 奈良カトリック教会  
 会費 一、〇〇〇円(軽食の準備あります)  
 申込方法 奈良県各教会主任司祭又は奈良県結婚互助会委員まで  
 締切日 9月2日⑩

夏期教会学校リーダー養成研修会

日時 8月10日⑩～12日⑩  
 毎日午前9時～午後5時  
 (宿泊はしません)  
 場所 京都カトリック会館6階ホール  
 会費 毎日一、五〇〇円

国際児童年記念講演

シリーズ(秋)

日時 9月4日・10月9日(火曜6回)  
 午前10時半～12時(9・10時)  
 場所 京都カトリック会館6階ホール  
 講師 青少年と自殺 石井完一郎氏

求人広告

家庭的な雰囲気の子学生寮の家事を下される方。15～25才の独身女性。個室完備、住込み。委細面談。  
 下鴨アカデミー 卍卍一五三二 荒木

製菓材料・舶来食品  
 和洋酒・修道院製クッキー  
 ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通鳥丸東入  
 電話 (221) 0976-7

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(佛式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下 安雄

京都市右京区西院寿町23  
 電話 (075)312-7829

# 教区ヴィジョン作りへの動き

## 司祭評議会検討事項

七月二日、司祭評議会例会において、京都教区ヴィジョン作りのための趣意書の検討に入った、その概略は次の通りである。まず司教により趣意書が朗読され、次に討議に入った。

「教会の建設よりも、神の国の証しに留意と努力を払う事」と云う言葉に対し、日本の教会の現状は少数である事であり、それがそのまゝ、弱さにつながる。ヨーロッパの教会の在り方と違って、日本の教会が当面する困難をのりこえながら、やはり教会のメンバーをふやす事が大切だ、との意見があり、それに対し司教はその意味を説明し、信徒の信仰をより深める事の大切さを訴える意味で書いたと答えられた。

### ヴィジョン作り

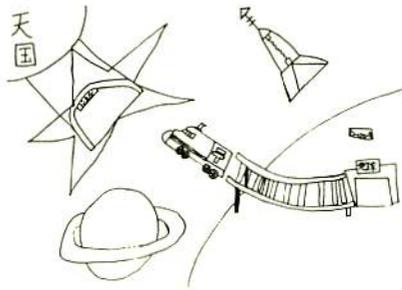
一、以下意見の簡単なまとめ。  
 ①教会についての教えの過去の主張と問題点、今公会議の教え、現在それをどう説明し、理解したらよいかを、司教が問題としている点から出せばよい。  
 ②正月の司祭懇親会の時出された意見をもとにして、五年十年先の教区の在り方を示せばよい。(本紙59号参照)  
 ③信徒にわかりやすいスローガンを掲げるがよい。例「祈りの共同体」「分ち合の共同体」「自由の共同体」等。  
 ④宣教か、信徒の教化か？ 宣教する信徒を育てる教化が必要である。  
 ⑤めざましい発展をとげている新興の

宗教の発展の秘訣を学ぶとよい。  
 三、司教の趣意書をもとに、ヴィジョンを作るための、指針を作る作業をするため準備委員会を設け、趣意書作りを行なう。  
 四、準備委員会のメンバー構成を司教が選任する。それには司教、総代理、山田師越知師、修女達から一名、信徒(男女、及び学識経験者)その他宣教師牧経験の長い司祭を選んでどうか。  
 五、準備委員会は趣意書作成のためであつて、その後それを受けて実行委員会が具体的方法を決定していく。  
 六、其の際、邦人司祭がまとめたもの(本紙第61号、5頁参照)又、日本宣教師牧センターの第二案(カトリック新聞6月24日、7月1日号参照)を参考にしたい。  
 七、原案は期間が短かいが、次回、司祭評議会までに作る。

以上が、司祭評議会会で討議された内容である。  
 この様にまだ具体的なヴィジョン作りと云う事は、でもまだ準備の段階と云わざるを得ない。なかには現代においてヴィジョン作りを云つては時代遅れだと云う人々もある様だ。これをどう考えるか、又日本の教会としてのヴィジョン作りが、検討されている折柄、之とどう調和させるか問題が残されている。

## 国際児童年記念特集(3)

### 神さまへのおねがい



西陣教会日曜学校 菱倉えいじ

かみさまは、なんでもできていいですね。それに二ばんえらいおしゅうさんやしんぶさまもおつくりになって、あくまをやつける天しがいるから、いいですね。  
 ぼくもべんきようをがんばって、えらい、よい子になります。そして、ずこうやらをがんばって、しようじようやらをいつぱいもらってがんばります。でもときどきいじわるをするときもあるけど、げんきにボールけりや、石けりをしてあそびます。そしてお母さんや、お父さんをおこらせません。ぼくもがんばって、オルガンやきようかいにきます。そしてべんきようをがんばって、早くこせたいがいただけるように、いのつています。かみさまもがんばって、あくまをたおし、てんごくにいて、天ごくに

### 国際児童年

くのをまってる人をたすけて、世かいの人びとを天ごくに、つれて、かえつてきて下さい。ぼくもがんばって、天ごくにかぞくみんな、いきます。  
 かみさま、みんなを、早くたすけてください。  
 ノートルダム小三年 石原正規

ぼくは、かわいそうな人たちに一万千五百円きふしたいと思いますが、もったいなくてあげられません。どうか、二千円あげた人みたいにあげるやさしい気持ちの人になりますように。神様、魚や鳥やけもの、それに人間、さらに、太よう、星、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星、それにイエズス様をくださいありがとうございます。ぼくは、わるいことをよくします。でも、神様から、もらった守ごの天しがあるのであくまがぼくに話しかけても、すぐ分かります。でもあくまに、ときどき、負けるときがあります。悪いことをした数は多いです。きのう、まつ山さんに「おまえなんか悪まよりきらいじゃ」といいましたが、まつ山さんはあくまよりもすぐくすです。今、はんせいしたらどうしてこんなことをいうたのかな。あんなことをいつてはずかしくなつてしまいました。

### 聖マリア養護学校 井上幸一

かみさま、いまだの星にいますのですか。かみさまあなたは、いつたいなにもんなんですか。だれもわかりません。  
 一かいでいいから顔見せてください。たのみます。

「あなたは、これらのことを、知恵のある人、賢い人にかくして、小さな人々におあらわし下さいました」

素直な謙遜な心を持ってイエズス様の御恵みを求めるなら、傷ついた心はいやされ、あやまることなく、本当の人間らしい生活をする事ができるでしょう。理性は神が人間に与えられたすばらしい賜物の一つですが、イエズス様の恩恵がなければ、たびたび間違うでしょう。迷うでしょう。

例えば——人は大昔の人間の作った道具をもしても発見したら偶然に出来上がったとは考えません。昔の人間の知恵をそこ



### 主の恵みを 祈り求めよう

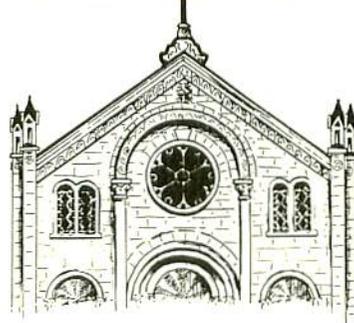
に見出すでしょう。神がおつくりになった植物、動物は、昔々の道具より百倍も万倍も複雑なものです。それなのに偶然に出来たと多くの人は信じているようです。神の人間を超えたすばらしい知恵を認めようとしません。更には、人間と動物の区別(魂の価値)がわからないのです。

結論として、真に人間らしい生活をする為には、どうしてもイエズス様の恩恵を必要とするのです。まして神への愛に燃えたキリスト教的な生活をするためには「偽り言者にまどわされしないで」謙遜な心でイエズス様の御恵みを祈って求めるべきでしょう。

ホーン神父 宮津教会主任

宮津教会八十三年をふりかえってみたいと思います。洗者聖ヨハネ教会は明治十八年十二月ルイ・ルラーブ神父様がパリ外国宣教会派司祭として来日されてから始まるといつて過言でないと思えます。明治六年に切支丹禁制の高札がとり去られた日本のカトリック教会が黎明期にあつた明治二十九年五月六日宮津洗者聖ヨハネ天主堂竣工、献堂式を行つております。当時神父様は、ゴム輪のない金輪だけで走る自転車で丹波、丹後の各地

## 宮津教会の頁



を布教なさりながら献堂なさつたと聞いております。

明治四十年四月に現在の暁星女子高等学校の前身である宮津裁縫伝習所を教会境内地に創設し、奥丹後においてのカトリック教育の中心として今日の発展を見っております。

昭和に入つて同二年三月七日丹後大震災にも天主堂は幸いにも大きな被害もなく、当時戸塚文卿師を長としたカトリック救護班が活躍したと聞いております。

昭和十一年四月には市内万年新地に宮津暁星幼稚園を新設しています。



こうした多くの宣教活動をなさつたルイ・ルラーブ神父様が昭和十六年二月一日逝去され宮津教会は深い悲しみにつ、まされたのでした。

戦後昭和二十五年五月カナダ国レデンブートル修道会司祭團来日、当地の宣教を委託され、現在もレデンブートル会神父様のご指導にあずかつております。

昭和五十一年六月二十七日献堂八十周年を記念式典を挙行致しました。記念行事として天主堂の大修築工事を多くの皆様のご協力により実施致しました。

こうした長い歴史を生き抜いた私達の教会は、大きなけやきの丸柱、コウモリ天井、当時フランスから送られた美しいステンドグラスのあるロマネスク調の教会は文化的な遺産としても大切に保存しなければならぬと思っております。

現在の主日ミサは早朝七時と九時の二回行われ、特に土曜日午後七時のミサは暁星女子高校生他、中高生を中心としたミサが行われております。

信徒の組織として壮年会、既婚女性のマリア婦人会、高齢者のヨゼフ会、青年会、日曜学校、高校、中学生会などがあつて、これらの学生の指導に訪問会のシスター、マリア婦人会の中にある若いお母さん方のお母さん、壮年の若葉会のお母さん方に指導をお願いしております。これらの会を統括するものとして壮年会員よ

り二名マリヤ婦人会員より四名選出された役員が毎月第一日曜日のミサの後、役員会を開いております。

年間の行事は教会全体行事として、復活祭のお祝い、教会の献堂記念日の六月二十七日前の日曜日の懇親会、クリスマスの夜、劇と歌による懇親会を行つております。

その他に日曜学校・中高生による夏休みの舎営、黙想会を開催し、各会それぞれに、お御堂、司祭館、教会の庭、墓地の清掃を行っております。が中でもヨゼフ会の方々によるお花作りは、祭壇を四季折々の美しい花でかざっていたいただき、信者一同の大きな喜びでもあります。また青年会の人達の編集で機関誌「からだね」が発刊されております。この七月八日は、子供達を中心とした、子供ミサ、又若い人達を中心としたフォークミサも計画ですが、こうした若い人達の今後の活躍が期待されるこの頃です。



設立当時の天主堂 (明治29年)

# フィリッピン研修リポ (上)

田中健一司教

日本の教会は欧米とは比較的につながりをもっているが、近隣のアジア諸国との交流はまだ充分とは云われない。これは世界に開かれた教会に成長するため私達の今日的課題だと思っていたので、FABC(アジア司教協議連盟)のもとで開催されたBISA-V(教会と社会の関わりについての司教研修会)に志願参加した。

日本からは、白柳大司教(東京)、相馬司教(名古屋)と私であったが、他の二人は既に数回これに参加しているのに対し、私は初めての経験であった。アジアは香港を除き全く未知の国々である。案内書類に、これは観光旅行では無く、司教としてのミッション旅行だから最低限の便利さしか期待しないようにと釘をさされ、先輩司教からも生水は絶対に飲まないように、正露丸、チリ紙を常に用意するようにと助言を受けていたので、それなりの覚悟をもって参加せざるを得なかった。期間は5月20日から6月2日までの二週間であった。前半はフィリッピン、タイ、スリランカ、インドネシアの各国に別れてのエキスポージャー(現地視察研修)。後半は一同がフィリッピン、バギオ市に集って体験の持ち寄り、分析、反省、決意の全体集会であった。

参加人員は約50名、FABCからは日本、韓国、台湾、香港、タイ、マレーシア、フィリッピン、インドネシア、パングラテッシュ、スリランカで、南太平洋からバプア、ニューギニア、タビチ、トング、フィジー、ニュー・ヘブリッド、ニュー・ジラランド、オーストラリア、特に今回は欧米からの司教がフィリッピン、



ア、フィリッピン、インドネシア、パングラテッシュ、スリランカで、南太平洋からバプア、ニューギニア、タビチ、トング、フィジー、ニュー・ヘブリッド、ニュー・ジラランド、オーストラリア、特に今回は欧米からの司教がフィリッピン、インフアンタ教区はマニラの東側太平洋に面する貧しい漁村、農村地区で、司教はカルメル会のラバイヤン司教、FABC社会活動の第一人者である。到着の晩、同司教を囲んでカテドラル(トタン屋根)でタガログ語の共同ミサ(毎晩200〜300人が参加)の暁でも暑い盛夏のフィリッピンではミサ中も信者は大きな椰子の葉ウチワを使用、熱気はなかなかに過越神秘の記念と賛美が続く。ミサ後、一同ホールに集って親しい歓迎会。ラバイヤン司教からFABC、BISAの説明、4人の司教が紹介され、それ々が短かい挨拶で応える。明るく開放的なフィリッピン人は我々日本人とはアジア人と云っても随分異り、アジアとラテンのあいの子、橋渡しのような感じがした。

## 読者の欄々マスコ途上 アメリカの街角で 気をつかうネ

建物の入口に向かって歩いて行くと、目の前の扉がスルスルと開く、などというのは経済大国日本ならではのこと。ワシントン、ニューヨークではついぞ見かけなかった。かなり年代物のがっしりとした大きな扉を、ぐっと力をこめて押し開くというのが多い。直ぐ後に続く人があると必ず扉を開いたまま待っている。後から入ってきたレイもジェントルマンも「サンキュー」と礼をいう。

うっかりレイの後に歩いて行こうものなら、扉を押し中へ入った彼女はそのまま細胞に満身の力をこめて扉を支えて待っている。慌て、入って扉を押え、「サンキュー」。気をつかうネ。開いた扉をぱっと離し、ひたすら前方目指してまっしぐらというのは先ず日本人。扉はすぐ後に続いてくる人に向つておどろか、る。気をつかうネ。(桃山教会 寺西弘教)

「マザー・テレサとその世界」  
鑑賞会のお知らせ  
日時 8月26日(土)午後1時と3時  
場所 京都館  
料金 大人600円(前売) 800円(当日)  
学生600円(前売、当日共)  
子供400円( )

※「ベルギーのママ」同時上映

(つづく)

# 芽生え (三)

— 京都教区五十年をふり返って

## 古屋義久

教会建設には、それはいろんなエピソードがあります。例えば、前回お話しした衣笠教会でも「泥棒」にまつわる愉快な話が残っています。衣笠教会は土地だけは戦前からあったのですが、終戦後は管理のために畑にしてみました。ところが食糧難の時代ですから、作物を盗んでいく人もあるわけです。それで、信者の人たちが小屋を立てて見張っていたら、反対に近所の人から泥棒がひそんでいるように勘違いされたそうです。

西陣の土地購入の時には、現在の場合以外にも候補がありました。それは烏丸今出川の通りに面した土地で、私は少々狭くともこちらの方が良いように思っていました。しかし結局は、同じ金額で今の広い土地の方を買ったのです。この教会と河原町教会とを往復して、私が孤軍奮闘していた時代の事は以前話しました。伏見教会も最初は丹波橋に土地を買ったのですが、そこまで道路が通じていなかったたので聖堂を建てるまでに至りませんでした。そこで、聖母女学院のために売却した土地の一角に、教会ができることになったのです。後にこの小教区の活動を補うために、桃山教会ができました。京都市内の教会建設で一番の大工事は、

やはり河原町教会の改築でしょう。今こそ河原町は京都一の繁華街ですが、教会が明治二十年代に土地を手に入れた時には、ずいぶん寂しい所だったそうです。何しろ、対馬侯の邸宅を買い取ったのですが、それが「化物屋敷」と呼ばれていたことからわかります。



河原町教会 旧聖堂

改築のきっかけとして、そのひとつに財政の問題がありました。教区の邦人司祭も増え、皆んな霞を食べて生活しているわけではありません。ウィット神父様も、経済的基盤を築かなくては、と助言して下さいました。

そんなとき、最初に出た案として、音楽堂を造るといふのがありました。私もそれなら、教会の敷地に造るとしても相

応しいし、文化の面で地域にもいくらか貢献できると考えていました。ところがどうしても金銭面で採算がとれそうになかったので、この案は流れました。京都でこのような事業が成り立っていくのは、まだまだ難しいようです。そこで代りの案として出たのが、ホテル建設だったので。話が決まるまでは様々な経緯がありました。話が、結局、経済的な面もこちらなら心配がないだろうとのことで決定しました。

当初、ホテルの建物を旧聖堂の奥に建てることになっていたのですが、旧聖堂が工事に耐えられそうにないことがわかりました。そこで、それを壊して建て直し、ホテルを現在のように通りに面して建設することになったのです。しかし、京都の建築家の人たちから、旧聖堂を壊すのは惜しいとの声があがりました。それを一筆に解決したのが、明治村移転の話でした。それで建物だけではなく、私の中の椅子などもそっくり寄付しました。ですから、今でも明治村に行くとき聖フランシスコ・ザビエル聖堂が、教会の雰囲気を保ったまま残されています。

現在の聖堂は、大きさは昔と全く同じです。建設の費用は、全て向うが持つことになっていました。でも、ステンドグラスやパイプオルガンの代金は、教会もいくらか持ちました。そして、昭和四二年一月二三日に献堂式を行い、京都教区の新しいカテドラルとして出発したのです。

(題字も古屋司教)



時報が対話  
の手段なら  
おう！書く  
者も読む者  
も、投稿者  
も、編集者も  
心を開けあ

◆友人の一人が多額の負債をか、えて倒産した。社の人を含めての影響は何百人にも及んでいる。そう言えば「時報」の出版も独立採算を前提のスタートだったな。実に、実に、悔いる材料に事欠かない梅雨空よ！ (き)

◆あついです。私に一杯の水をと主は云われる。昔、中学校に一水会と云う会がありました。自分の小遣いの一部を献金して、必要な方に使っていた。くと云う主旨のものでした。一杯の親切を下さい。 (MT)

◆朝顔にお株とられたスカイラブ。読人不知。計算づくで咲かせたり、落したり、工面出来る人は羨しい。こちら遅れつばなし (Y)

◆線香花火になにを見ますか。青春時代秘かな思いを燃焼させ、いつの頃からか人生に移しかえてみる。八月とは、そのようなものを供養する月でもあるように思います。 (I)

◆むかしむかし、おじいさんが子ども  
のころには、夜空には星がいっぱいあつてな、それはきれいなもんだつたよ。  
「満天の星」 「星降る夜」をいつから経験していないでしょうか。それらの言葉がすでに死語のようにすら思えます(亜)

本紙を福音宣教にお役立て下さい。